

NPO法人 町田ハンディキャブ友の会

〒194-0013 東京都町田市原町田4-24-6 Tel : 042-721-5721 Fax : 042-721-6605
mail : mcdhcb@yahoo.co.jp
第70号 発行責任者 石井 章夫 発行日 2025年2月1日

甘い香りに誘われて ～一面に咲き誇る蠟梅～



撮影地：忠生公園

今年も「安全で安心して利用できる」移送サービス

理事長 石井 章夫

新たな年を迎えるにあたり、日頃より私どもの活動に対して皆さま方からのご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年はおかげさまで大きな事故もなく順調に移送サービスを行うことができました。今年も引き続き「安全で安心して利用できる」移送サービスを目指して活動を進めてまいります。

さて、町田ハンディキャブ友の会が直面している大きな課題があります。それは、現在事務所として利用している「せりがや会館」から2027年3月を目途に移転しなければならぬことです。新たな事務所の候補地を探す必要があるため、町田市をはじめ皆さま方のご協力をよろしくお願いいたします。

私たちの活動は、昨年リニューアルしたホームページに掲載していますので皆さまもご覧になり、ご意見をいただければと思っております。

これからも「移送サービス事業」と「バリアフリーマップ運営」の活動を通じて「福祉のまちづくりの推進」を図ってまいりますので、引き続きご支援ご協力をよろしく願います。

◎ペスカドーラ町田観戦ツアー

町田ハンディキャブ友の会が長年行ってきた「バスハイク」。今回は近場で、町田市を拠点として活動しているフットサルクラブ「ASVペスカドーラ町田」の試合を12月1日(日)、町田市総合体育館で観戦しました。

正会員や利用会員、運転協力員など17名の参加がありました。当日は総合体育館内にあるレストランで、お弁当を頂いた後、試合前の選手やチアダンスチーム「Honey」から挨拶などがあり、ペスカドーラ町田の協力の下、選手などとの交流も行うことができました。



試合前の選手が来てくれました



チアダンスチームも来てくれました

この日は、ボルクバレット北九州戦。町田のホームゲームで会場には2100人以上の来場があつたようです。

試合は、ペスカドーラ町田の毛利選手が先制点をあげるも、前半終了間際、相手チームにもゴールが決まり、1対1の同点で前半を折り返しました。

後半、相手チームに2点を奪われましたが、終了間際、伊藤選手、野村選手が続けてゴールを決め、3対3の引き分けで試合終了と、最後まで白熱したゲームでした。お揃いのマフラータオルを手に、応援に力が入る試合となりました。

素早いパス回しや、早いゲーム展開など迫力のある試合、チアダンスのパフォーマンスなど

試合の間にもイベントがあり、大満足の一日となりました。

参加者からは「フットサルの観戦は初めてなので、細かいルールはわからなかったが、迫力があつて面白かった。また、観戦に來たいです。」などの感想も聞かれ、楽しい時間となつたようです。

また、当日はペスカドーラ町田の関係者の方に1日案内をしていただきました。ありがとうございました。



車いす観覧席から白熱の試合を応援

◎町田市庁舎バリアフリーツアー

1月12日(日)、町田市役所において、町田市役所福祉総務課主催、FC町田ゼルビア・町田ハンディキャブ友の会合同で、小学生と保護者を対象とした町田市庁舎バリアフリーツアーが開催されました。

当日は町田市の議場を見学し、議場のバリアフリーを学んだ後、リフトカーと車いすの体験を行いました。リフトカーの操作については、当会の運転手2名が協力して行いました。

FC町田ゼルビアのマスコット・ゼルビー君も同行し、参加者は楽しみながらバリアフリーについて学ぶことが出来たようです。



リフトカーの操作を実演

活動報告

◎みんなの経験共有会

11月27日（水）、町田市地域活動サポートオフィス主催の「みんなの経験共有会」が19 福祉の町田を担った市民たち第2弾「町田ハンディキャブ友の会のあゆみ」に、高橋副理事長、小竹理事、井上事務局長がゲスト出演しました。

「みんなの経験共有会」は、みんなの経験や挑戦を市民の知にしていこうと、2024年度は新たに「温故知新シリーズ」としてこの先も町田で語り継いでいきたい活動をしている地域活動の先輩をゲストにお招きし、じっくりとお話を伺っていくというサポートオフィスのシリーズ企画です。

「町田ハンディキャブの沿革」を続けてきた組織運営の「NPO・民間組織」という立場から「こころきょうこ」などのテーマについてお話ししました。当日はオンラインで配信し、アーカイブ視聴を含め17名の方の参加がありました。

当日の様子は町田市地域活動サポートオフィスのホームページからレポートがご覧いただけます。



登壇した皆さんと石井理事長

ドライバーのつれづれ日記



井上 純子

この仕事に関わる前は屋内の生活が多かったせいか、季節を感じる事があまりありませんでした。

2013年の30周年記念式典に参加した頃からは、四季の移り変わりが感じられてきた様な気がします。

その頃は利用者さんのご自宅に迎えに行きますと、季節の挨拶から始まり、会話も弾みました。

しかし、コロナ禍が過ぎた頃から、温暖化のせいでしょうか、暑いのか寒いのかの気温差だけで、春や秋の感覚も遠のいた気がします。

私も体調管理は大変でしたが、2023年の40周年記念式典に参加できたことは嬉しく思い出されます。

また、昨年の12月にはバスハイクも復活し、フットサル大会（ペスカドーラ町田）を観戦させてもらい、元気を頂きました。

さて、植物は暑さ寒さに負けず、自分の季節が来ると花を咲かせます。

そんな植物の姿を観察しながら、これからも季節の会話を楽しみにして、安全運転に努めていきたいと思ひます。

◎まちカフェ

11月30日（土）、第18回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」が町田市役所で開催されました。

当会も「バリアフリーマップってどんな地図？」をテーマに、①新しくなったバリアフリーマップを触ってみよう！②バリアフリーマップってどうやってつくられてる？③車いすでトイレ体験＆まち歩き疑似体験、車いすの方はどうやってトイレに入っているんだろう？など、来場者にバリアフリーマップや車いすの体験をしていただきました。



実際にバリアフリーマップを操作して頂きました

◎会費納入のお願い
町田ハンディキャブ友の会は、皆様の会費で運営されています。今年度の会費未納の方は、お振込み願います。

事務局だよ

《今号の表紙》

忠生公園のロウバイ

忠生公園内にある蟬梅苑のロウバイが見頃をおかえていました。ロウバイは中国原産の落葉低木の一つで、冬に黄色い花を咲かせ、甘い香りがするのが特徴です。
(撮影：1月25日)



シリーズ・ことば

旅の途中で

Nabe.

はるかな彼方の山の稜線があかね色に燃えたち、空と大地がほおずき色の夕焼けに染まり始めるころ、やがて我が身も同じ色に同化してゆく。

徐々に昏れてゆく夜のとばりの入口に、なす術なく佇みながら、現世（うつしよ）への、ラストランのいのちのたすきを託されてからの長いロードに想いを馳せてみる。

その道すがら、リルケの詩に触発され、宮沢賢治に諭され、谷川俊太郎の死に驚愕し、息もつかずにただ走り続けて来たラストランの長いロード。

未だあたえられたいのちの重みもはかれぬまま、お守りのように携えてきた一本のたすき。

父と母がいのるようにして託してくれたそのたすきも、年月（としつき）の雨かぜのなかに、見る影なく色うせ、いまにも千切れんばかりである。

もはや、我が身から離して、その手元に返すべきかれらの墓標が、行く道の果てにぼんやり霞んで見えてきた。

だが、――旅はまだまだ途中である。

追悼

2024.11.13.詩人、谷川俊太郎さんが旅立たれた。
92年の生涯だった。

合掌。

《編集後記》

春めくや
藪ありて雪ありて雪
一茶

2025年。暗い。地球全体が、どんよりと。戦争、テロ、無差別殺人、暴力とその果ての滅入る夜明け、など。世界規模の温暖化の色が。すがすがしさを失った。春は、確実に歩みを進めていく。信条として、優た互いを。かからう笑顔を。希みもある。救いもある。祈りもある。ハンディキャブ。その心。糧。いのちの。ひたすら前に。向いて。歩いて。行く。空が少し明るく切

(2025年2月広報子一同)